

医療従事者
向け

これだけは知っておきたい
口腔ケア



監 修

医療法人永寿会 陵北病院

副院長 阪口 英夫

歯科衛生科長 齋藤 しのぶ



Otsuka 大塚製薬工場

CONTENTS

1	口腔ケア方法(基本)	1
2	スポンジブラシ 洗淨方法	4
3	スポンジブラシ 基本操作	5
4	スポンジブラシ 回転方法	6
5	口腔ケア用ウェットシート 巻き方	7
6	口腔ケア用ウェットシート 基本操作	8
7	歯磨きの基本 適切なブラッシング方法	9
8	歯磨きの基本 歯周病について	11
9	歯磨きの基本 口腔ケア10の基礎知識	12

監修者の言葉

医療法人永寿会
陵北病院

副院長 阪口 英夫
歯科衛生科長 齋藤 しのぶ

療養型病院にて、要介護者から人生の最終段階における患者さんの歯科診療や口腔衛生管理に携わっております。医療に従事する皆様が、様々な状況下において、自信を持って取り組んで頂けるよう、口腔ケアの基本的な方法やポイントについて解説させて頂きました。患者さんの日々の口腔ケアにおいて、少しでもお役に立てることがあれば幸いです。

1. 口腔ケア方法(基本)

STEP1

準備

STEP2

ポジショニング

STEP3

心構え

STEP4

口腔清掃

STEP5

マッサージ

STEP1

準備



準備するもの(例) 個々に適したものを準備する



STEP2

ポジショニング

良い例



30°仰臥位頸部前屈位
リクライニング/ベッドサイド

悪い例



頸部伸展

臀部のずれ

Point 1

<誤嚥しにくい姿勢にする方法>

- 視線を合わせる
- 口腔ケア前に姿勢を整える
- 30°仰臥位頸部前屈位 (リクライニングorベッドサイドの場合)
- 頸部伸展・臀部のずれは、誤嚥しやすい姿勢なので、負担のかからないよう安定した姿勢に整える

STEP3

心構え



1 声かけ

2 口唇周り接触

3 口唇接触

4 口角から口腔へ

5 口腔清掃開始

心構えが
できたら

心構えが
できたら

Point 3

<口腔乾燥の対処方法>

- ③口唇接触を実施しながら、口唇に口腔ケア用ジェルを使用することで、心構えを持ちやすく、同時に乾燥した口唇を湿潤させることが可能

(口唇乾燥がある場合)

Point 2

<患者さんが口腔ケアをされる心構えを持ちやすい方法>

①声かけ→②口唇周り接触→③口唇接触→④口角から口腔へ→⑤口腔清掃開始

- やさしく丁寧に、過度な力をかけすぎない
- 不快な思いをさせない

拒否の軽減に
つながることがあります

STEP4

口腔清掃

Point 4

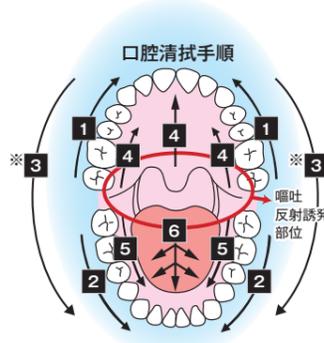
<口腔清掃基本操作方法> 清拭 → ① → ② → ③ → ④ → ⑤ → ⑥ → ⑦ → ⑧ → ⑨ → ⑩ → ⑪ → ⑫ → ⑬ → ⑭ → ⑮ → ⑯ → ⑰ → ⑱ → ⑲ → ⑳ → ㉑ → ㉒ → ㉓ → ㉔ → ㉕ → ㉖ → ㉗ → ㉘ → ㉙ → ㉚ → ㉛ → ㉜ → ㉝ → ㉞ → ㉟ → ㊱ → ㊲ → ㊳ → ㊴ → ㊵ → ㊶ → ㊷ → ㊸ → ㊹ → ㊺ → ㊻ → ㊼ → ㊽ → ㊾ → ㊿

汚れの除去

口腔清掃器具・口腔清拭用品により歯や舌・頬粘膜・口蓋側等の粘膜に付着したプラークや食物残渣・剥離上皮膜を除去すること

汚れの回収

除去したプラークや食物残渣・剥離上皮膜を口腔清掃器具・口腔清拭用品にて口腔から回収すること



Point 5

<口腔清拭手順>

- 口腔清拭手順を参考に参考にする
- 嘔吐反射誘発部位は、開始後すぐには触れず、慣れてから実施するのが望ましい

※④は頬粘膜

Point 6

<口腔清拭方法留意点>

- 汚れが咽頭へ行かないよう、奥から手前に操作する
- 小帯を傷つけたり、指等を噛まれないよう注意する
- 除去した汚れは、スポンジブラシor口腔ケア用ウェットシートにて必ず回収し、ティッシュで拭き取る

軟化方法



Point 7

<軟化方法>

- ① 口腔ケア用ジェルを手の甲に1cmくらい出す。スポンジブラシを回転させ、全体に口腔ケア用ジェルを馴染ませる
- ② 口腔ケア用ジェルが馴染んだスポンジブラシで、軟化させたい部分又は全体的に使用する
- ③ 軟化した剥離上皮膜等は除去して回収する

Point 8

<剥離上皮膜除去>

- 剥離上皮膜等の乾燥した汚れは無理に粘膜から剥がさない
- いかに軟化できるかが重要
- 舌苔や強固な剥離上皮膜等の汚れは、清拭にて湿潤させ、口腔ケア用ジェル等を用いて軟化→除去→回収を繰り返すとよい

STEP5

マッサージ

マッサージ方法



スポンジブラシ 口腔ケア用ウェットシート

Point 9

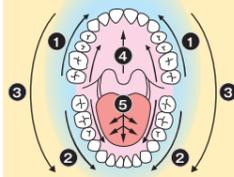
<マッサージ方法>

- ① 口腔ケア用ジェルと適量(1cm)を手の甲にとり、スポンジブラシを回転させ、全体に口腔ケア用ジェルを馴染ませる
- ② 口腔ケア用ジェルが馴染んだスポンジブラシにて口腔全体に薄く均一に使用しマッサージする
- ③ 口腔ケア用ジェルは、吐き出すか、スポンジブラシor口腔ケア用ウェットシートにて軽く拭き取る

Point 10

<マッサージ手順>

①→②→③→④→⑤の順
マッサージする部位



口腔ケア用ジェルの使用について

Point 11

<口腔ケア用ジェル使用方法 留意点>

- ◆ 口腔ケア実施時、前回の口腔ケア時に使用した口腔ケア用ジェルが残っていた場合は、口腔ケア用ジェルの層ができてしまうので、残したまま使用しない
- ◆ 多量に使用すると痰や剥離上皮膜等と混ざり、塊となることもある。最悪の場合、咽頭に落ちて窒息のリスクも考えられるため、多く使用し過ぎない
- ◆ 口腔ケア用ジェルは薄く均一に使用し、使用後は吐き出すか、軽く拭き取る

口腔観察

Point 12

<口腔観察方法>

- ① ライトが無いと暗く、汚れの区別がつかない
- ② ライトにて口腔観察
- ③ 視野が明るくなり、観察しやすい



1 → 2 → 3

Point 13

<口腔観察方法 留意点>

- ◆ 汚れの付着、粘膜の腫脹や傷、出血、歯牙破折、動揺歯の有無等を確認する
- ◆ 口腔ケアの開始や終了時等に行うのが望ましいが、拒否がある場合等は、無理せず、観察できる範囲で実施する

2. スポンジブラシ 洗浄方法

— MEMO —



準備

操作1
 A 口腔清拭用 (希釈した含嗽剤) と B 洗浄用 (水) 2つのコップを準備する
 A 口腔清拭用 (希釈した含嗽剤) → 口腔清掃を行う
 B 洗浄用 (水) → 汚れたスポンジブラシを洗浄する

STEP 1 ① 湿らす (口腔清拭用) ⇒ ② 絞る ⇒ ③ 拭き取る

1 湿らす (口腔清拭用)

操作①
スポンジブラシを A 口腔清拭用にて湿らす

Point 1
 〈十分に湿らす〉
 ●初めてスポンジブラシを湿らす時はスポンジブラシ全体に水分が染みこむまで湿らす

2 絞る

操作②
湿らせたスポンジブラシの水分を絞る。水分は B 洗浄用のコップに絞る (1回目は A 口腔清拭用に絞ってもよい。A 口腔清拭用のコップには汚れた水は絞らないようにする)

Point 2
 〈よく絞る〉
 ●余剰水分での誤嚥を防ぐためよく絞る

3 拭き取る

操作③
余分な水分はティッシュにて拭き取る

STEP 2 ④ 口腔清掃 ⇒ ⑤ 拭き取る

4 口腔清掃

操作④
口腔清拭を開始して、汚れの除去と回収をする
操作方法 <4. スポンジブラシ 回転方法> 参照

5 拭き取る

操作⑤
プラークや食物残渣、剥離上皮膜等の汚れがスポンジブラシに付着した場合、そのまま次の部位を清掃せず、その都度ティッシュで汚れを拭き取る

Point 3
 〈拭き取る〉
 ●スポンジブラシに付着した汚れは、洗浄用 (水) にて洗浄する前に必ずティッシュで拭き取る

STEP 3 ⑥ 洗浄 (洗浄用) ⇒ ⑦ 絞る ⇒ ⑧ 拭き取る

6 洗浄 (洗浄用)

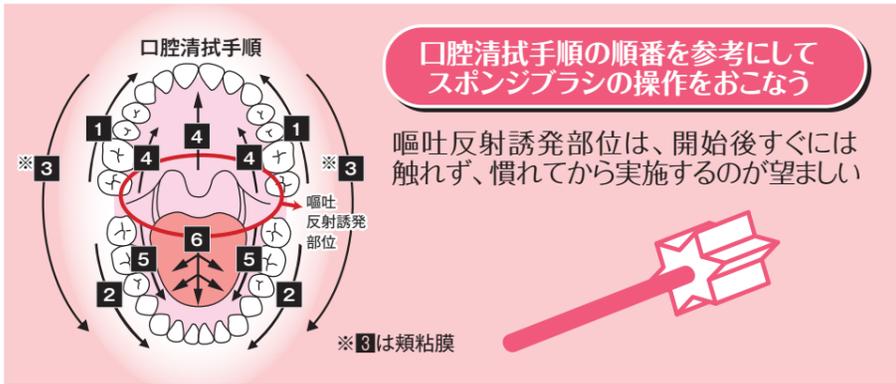
操作⑥
ティッシュで汚れを拭き取ったスポンジブラシは、B 洗浄用にて洗浄する

7 絞る

8 絞る ⇒ 拭き取る

操作⑦ → ⑧
⑦ 洗浄したスポンジブラシの水分を B 洗浄用によく絞り、⑧ さらにティッシュにて、余分な水分を拭き取る

3. スポンジブラシ 基本操作



心構え ★やさしく、ていねいに

使用方法



心構え

- ①声かけ ②口唇周り接触
- ③口唇接触 ④口角から口腔へ

1 上顎頬側(右側)



使用方法

- ①操作方向 奥から小帯に向かって清拭
- ②回転方向 歯肉に沿って上から下に回転(右回転)させながら清拭

1 上顎頬側(左側)



使用方法

- ①操作方向 奥から小帯に向かって清拭
- ②回転方向 歯肉に沿って上から下に回転(左回転)させながら清拭

2 下顎頬側(右側)



使用方法

- ①操作方向 奥から小帯に向かって清拭
- ②回転方向 歯肉に沿って下から上に回転(左回転)させながら清拭

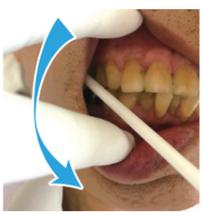
2 下顎頬側(左側)



使用方法

- ①操作方向 奥から小帯に向かって清拭
- ②回転方向 歯肉に沿って下から上に回転(右回転)させながら清拭

3 頬粘膜(右側)



使用方法

- ①操作方向 上から下に向かって頬粘膜の膨らみを持たせるように清拭
- ②回転方向 左回転させながら清拭

3 頬粘膜(左側)



使用方法

- ①操作方向 上から下に向かって頬粘膜の膨らみを持たせるように清拭
- ②回転方向 右回転させながら清拭

4 口蓋側



使用方法

- ①操作方向 奥から手前に向かって清拭(慣れるまでは手前のみ清拭)
- ②回転方向 前転させながら清拭

6 舌



使用方法

- ①操作方向 奥から手前に向かって葉脈を描くように清拭(慣れるまで手前のみ清拭)
- ②回転方向 後転させながら清拭

5 舌側(右側)



使用方法

- ①操作方向 奥から前歯部中央に向かって清拭(舌と歯列の間にスポンジブラシを挿入し歯肉に沿わせて清拭)
- ②回転方向 右回転させながら清拭

5 舌側(左側)



使用方法

- ①操作方向 奥から前歯部中央に向かって清拭(舌と歯列の間にスポンジブラシを挿入し歯肉に沿わせて清拭)
- ②回転方向 左回転させながら清拭

4. スポンジブラシ 回転方法

スポンジブラシ回転方法(表側)

1 上顎頬側(右側)



右側

1 上顎頬側(左側)



左側

2 下顎頬側(右側)

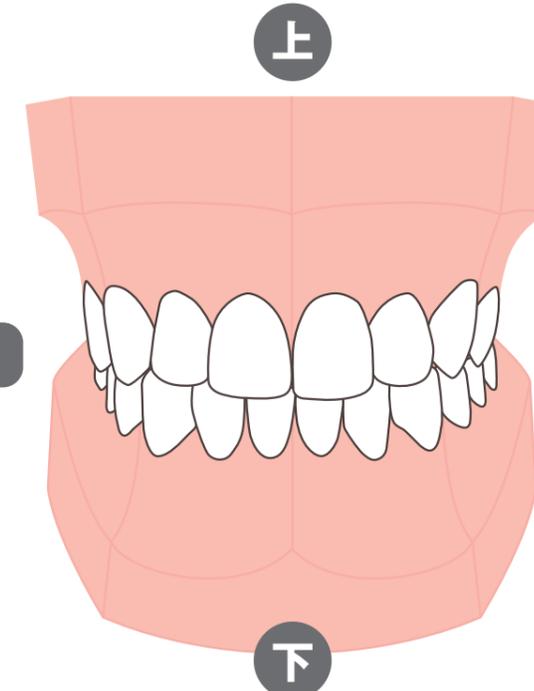


右側

2 下顎頬側(左側)



左側



スポンジブラシ回転方法(裏側)

3 右頬粘膜(右側)



右側

3 左頬粘膜(左側)



左側

4 口蓋側



右側

6 舌



左側

5 舌側(右側)

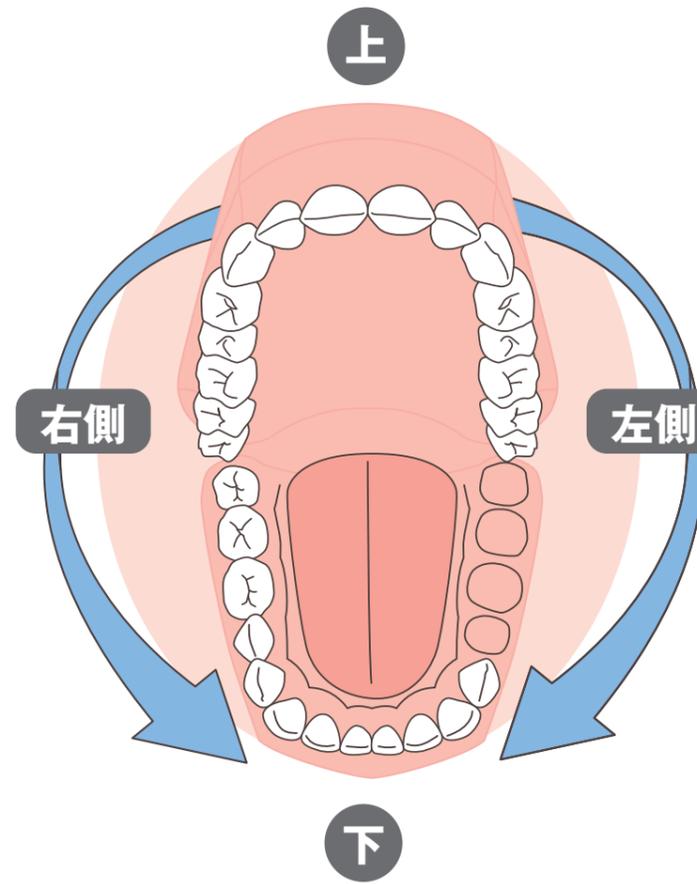


右側

5 舌側(左側)

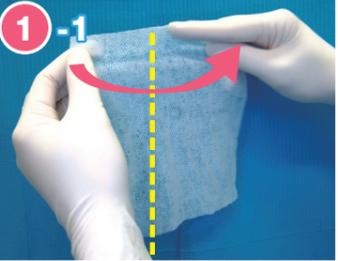


左側

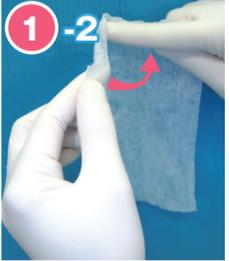


5. 口腔ケア用ウェットシート 巻き方

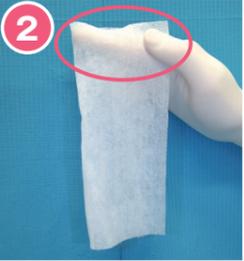
巻き方



1-1



1-2



2



3-1



3-2



4

操作①
人差し指(利き手)を口腔ケア用ウェットシート上部に添え、口腔ケア用ウェットシートを半分折る

操作②
人差し指(利き手)を口腔ケア用ウェットシートの中に挟む

操作③
口腔ケア用ウェットシートを人差し指(利き手)に巻き付ける

操作④
巻き終わりは親指や中指で押さえておく
実際の使用方法については<6.口腔ケア用ウェットシート 基本操作>参照

汚れの清拭・回収



5-1



5-2



6-1



6-2



6-3



6-4

操作⑤
汚れが付着したら、その都度ティッシュで拭き取り回収する

操作⑥
常に未使用面で清拭するため、一清拭ごとに人差し指(利き手)に巻きつけていた口腔ケア用ウェットシートを一巻きずつ広げ親指や中指で押さえておく

ポイント
適切に使用すれば1枚の口腔ケア用ウェットシートで多くの汚れを回収することが可能

清拭面の交換



7-1



7-2



7-3



8-1



8-2



9-1



9-2

操作⑦
操作②の状態に戻ったら、操作①と同様に口腔ケア用ウェットシートを開き、人差し指(利き手)を新しい清拭面の間から使用済面の方に挟み直す

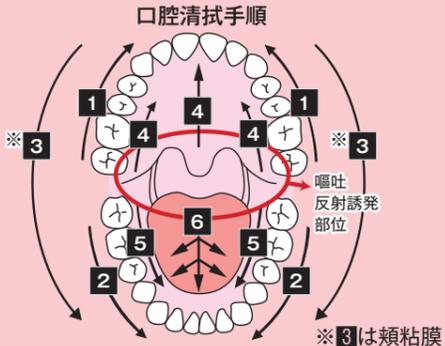
操作⑧
新しい清拭面に操作③と同様に口腔ケア用ウェットシートを人差し指に巻き付ける

操作⑨
巻き終わりは操作④と同様に親指や中指で押さえておく
新しい清拭面にて操作⑤～⑥の清拭と回収を行う

6. 口腔ケア用ウェットシート 基本操作

心構え ★やさしくていいに

口腔清拭手順の順番を参考にして口腔ケア用ウェットシートの操作をおこなう



嘔吐反射誘発部位は、開始後すぐには触れず、慣れてから実施するのが望ましい

※3は頬粘膜

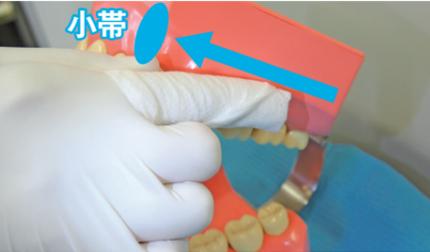


ワンポイントアドバイス
人差し指第一関節の腹を粘膜面に沿わせるとスムーズに清拭しやすい

Point 1

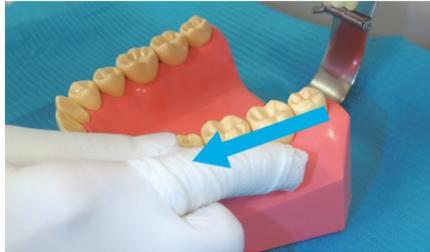
- 優しく丁寧に清拭をすること
- 一清拭ごとにシートに付着した汚れをティッシュで拭き取る

1 上顎頬側



操作①
奥から小帯に向かって清拭する

2 下顎頬側



操作②
奥から小帯に向かって清拭する

3 頬粘膜



操作③
上から下に向かって清拭する

Point 2

- 口腔乾燥がある場合、粘膜面を傷つけやすいので、注意すること
- <口腔乾燥が顕著な場合> 口腔粘膜を傷つけないよう、口腔を湿潤させてから使用する

Point 3

- 頬粘膜は、膨らみを持たせるように清拭する

4 口蓋側



操作④
口蓋側の形態に沿って、奥から手前に向かって清拭する

5 舌側



操作⑤
舌と歯列の間を歯肉に沿わせて、奥から前歯部中央に向かって清拭する

6 舌



操作⑥
下方向に圧力をかけないよう、葉脈を描くように、奥から手前に向かって清拭する

Point 4

- <④口蓋側、⑤舌側、⑥舌に関する注意点> ①嘔吐反射がある場合は、慣れてから奥の方を清拭する ②指を噛まれないように注意すること

7. 歯磨きの基本 適切なブラッシング方法

1. 上下表側・裏側（前歯部裏側を除く）

Point 1 ①角度 ②動かし方 ③ブラッシング圧

1 角度

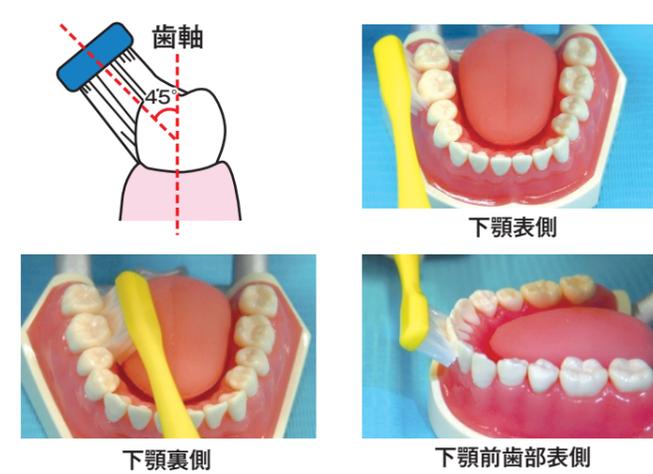
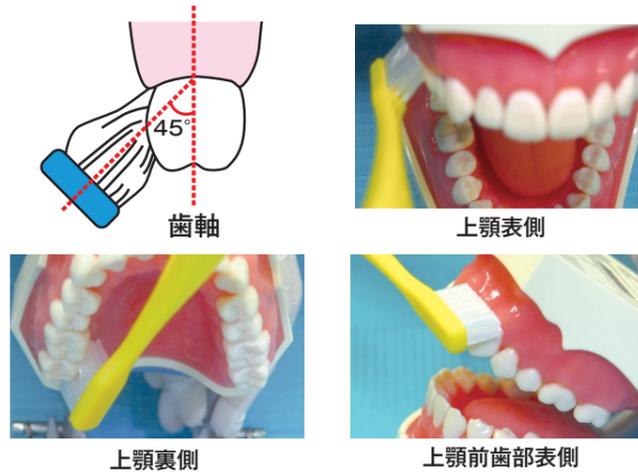
Point 2 歯軸に対して歯ブラシの毛先を45°に傾け、歯と歯肉の境目に当てる

上顎（前歯部裏側除く）

Point 3 上顎：毛先→上向き

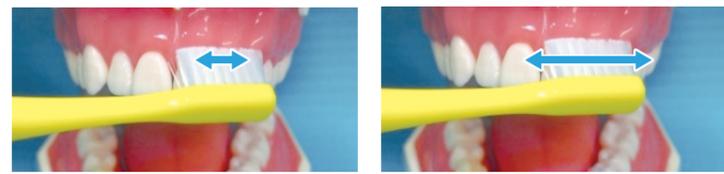
下顎（前歯部裏側除く）

Point 4 下顎：毛先→下向き



2 動かし方

Point 5 小刻み（振り幅1~2mm程度）に動かす



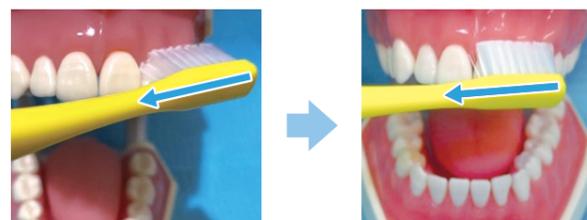
○小刻み

✗振り幅が大きい

・毛先は歯と歯肉の境目に当て小刻み（1~2mm）に動かす（10~20秒程度）

・細部の汚れを除去しにくいいため、振り幅は大きく動かさない

Point 6 1歯程度、歯ブラシを横にずらしながらブラッシングを進めていく



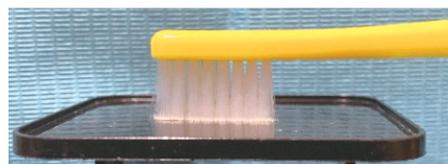
・2歯程度を同時に磨き（10~20秒程度）、磨けたら1歯程度を横にずらしながらブラッシングを進めていく

3 ブラッシング圧

Point 7 ブラッシング圧は100g程度の軽い力で磨く

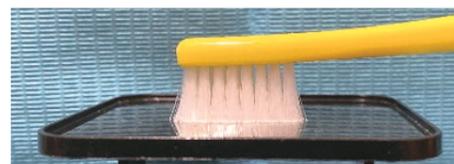


適圧100g程度



○適圧

・毛先が広がっていない
・適切な角度&動かし方+適圧
→汚れが除去しやすい
・出血する場合→歯肉炎症の可能性あり



✗圧が強い

・毛先が広がっている
・適切な角度&動かし方+圧が強い
→汚れが除去しにくい
・擦傷や摩耗する原因となりやすい

2. 前歯部裏側（上下）

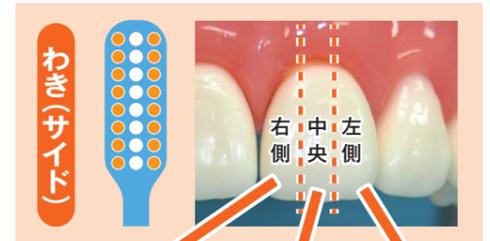
Point 8 前歯部裏側（上下）は、歯ブラシを縦にして1歯ずつ磨く

Point 9 つま先・わき（サイド）・かかとを使い分ける



Point 10 1歯を3分割する

・わき（サイド）を利用し、3分割（右側・中央・左側）して縦磨きする



3. 咬合面

Point 11 溝に汚れが付着しやすい

・毛先を歯面に対して垂直に当て小刻みに動かして磨く



咬合面（上）

咬合面（下）

4. 舌

Point 12 粘膜ケア必須

嘔吐反射注意
・舌を押し付けるような力はかけない
・慣れてから触れた方が望ましい
・粘膜を傷つけないよう奥から手前に葉脈を描くよう磨く
・舌苔等の汚れは、清拭にて湿潤させ、ジェル剤等を用いて軟化→除去→回収を繰り返すとよい



5. 残根

Point 13 歯肉を傷つけないよう注意

・歯肉の中に歯根が埋まっている状態なので、歯肉への負担が少ない口腔ケア用品を選択すると良い



先端が細く処理された歯ブラシ

やわらかめの歯ブラシ

6. 動揺歯

Point 14 痛みがないよう配慮

・動揺歯は負担をかけないように押さえないで磨く



7. 最後臼歯

Point 15 表側は大きく開口しない方が磨きやすい



大きく開口

軽く開口

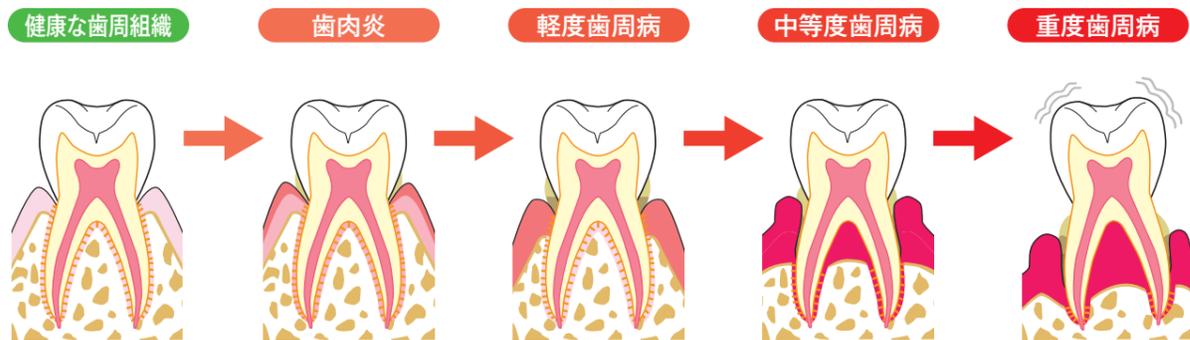
・頬粘膜緊張→歯ブラシが奥まで挿入しにくい

・頬粘膜弛緩→歯ブラシが奥まで挿入しやすい

8. 歯磨きの基本 歯周病について

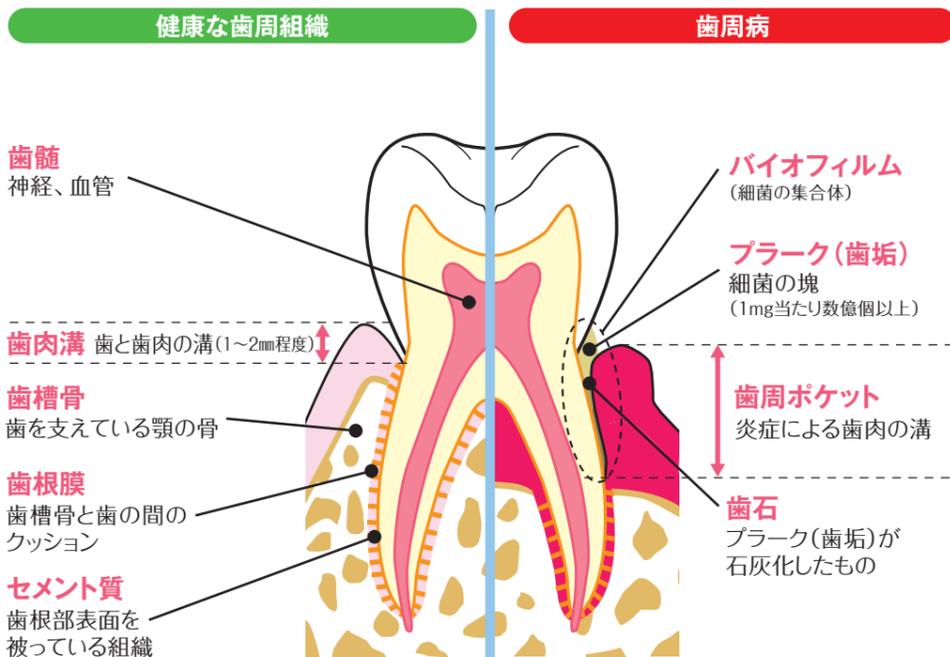
Point 1 歯周病の進行

歯周病はプラーク(歯垢)に起因する細菌感染症です。プラーク(歯垢)は細菌の塊で歯と歯肉の間に付着し、バイオフィルム(細菌の集合体)を形成し、歯肉の炎症を引き起こします。さらに炎症が進行すると、歯を支えている歯周組織を破壊して、最終的には歯を喪失してしまふことがあります。



	健康な歯周組織	歯肉炎	軽度歯周病 → 中等度歯周病 → 重度歯周病
炎症の有無	・歯肉炎症なし	・歯肉のみの炎症	・歯肉のみならず、歯周組織(歯肉、歯槽骨、セメント質、歯根膜)にまで炎症が進行
症状	・歯肉はピンク色で引き締まっている ・出血や痛みなし	・ブラッシングにて、時々出血することがある	・歯周組織の破壊が進行し、歯周ポケットが深くなり、歯の動揺や痛み、出血や排膿、口臭を伴うこともある ・最終的には歯が抜けてしまうこともある
対処方法	・適切なブラッシング継続	・適切なブラッシングにて改善可能	・適切なブラッシング+歯科にて歯石除去や歯周病治療等必須
適切なブラッシング + 定期的な歯科受診			
歯ブラシかたさの目安	ふつう ←	←	→ やわらかめ

Point 2 歯の形態把握



Point 3

歯周病が悪影響を及ぼすとされている疾患

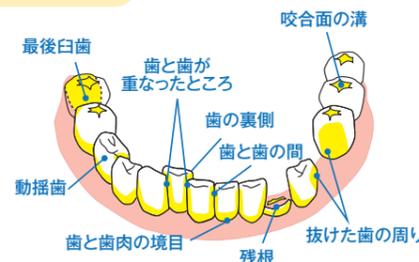


9. 歯磨きの基本 口腔ケア10の基礎知識

Point 1 “磨けている”をマスターする “磨いている”だけでは“磨けている”とは限りません

Point 2 口腔状況把握

・汚れが付着しやすい部位を把握し、意識して磨くとよい



Point 3

適量の歯磨剤使用or必ず使用しなくてもよい

ジェル剤の場合 → 小豆2~3粒程度

市販の歯磨剤の場合 → 小豆大程度



(歯磨剤の適用使用例)

Point 4 所要時間の目安3~5分

(丁寧に磨くと10分位かかる場合もあり、口腔状況により異なる)

・時間をかけて磨けば、磨き残しや磨き忘れがなくなるとは限りません
・所要時間に固執せず、適切なブラッシング方法を実施することが大切
・時間が無い場合→歯ブラシを当てる時間(10~20秒)を短くすることで時間短縮可能

Point 5 持ち方

ブラッシング圧がかかりすぎないように持つ

ペングリップ
持ち方:鉛筆を持つように握る



力が入りにくい

パームグリップ
持ち方:グーのように指全体で握る



力が入りやすい

Point 6

交換時期 1カ月程度(消耗と衛生面より)



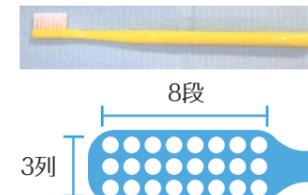
・毛先が広がると除去率低下
・2週間程度で毛先が広がる場合は、ブラッシング圧が強い可能性あり

Point 7 選択基準

・口腔や身体状況に適したもの
・誰が使用するのか(本人or介護者)やコスト面を考慮
・歯科医師、歯科衛生士にご相談ください



<様々な口腔ケア用品例>



・一般的に3列8段程度のコンパクトなもの
・かたさはふつう
(②歯周病について参照)

問題点

“磨いている”ので“磨けている”と勘違いしやすい
例)・時間をかけているが、磨きやすい部位のみ磨く
・多量の歯磨剤使用により清涼感が増す等

解決策

“磨けている”を実感し、継続することが大切
例)・適量の歯磨剤の使用
・磨き忘れがないよう磨く順番決定
・適切なブラッシング方法実施等

Point 8 口腔ケア回数・タイミング→3回/1日(毎食後)

・就寝中は唾液分泌量減少、口腔内細菌増殖等により、汚れが停滞しやすいため夕食後の口腔ケアは必須
食前の口腔ケアも効果的(食前に口腔ケアした場合も食後の口腔ケア必須)
・高齢者は口腔乾燥が顕著な方や誤嚥しやすい方等もあり、食前の口腔ケアにて清潔湿潤にすることで快適な食事をサポートすることも必要(ジェル剤併用もお勧め)

Point 9

禁食後の食事再開→食前の口腔ケア必須
・食事再開時は必ず口腔を確認(口腔乾燥や剥離上皮膜等の汚染が多い場合あり)
・誤嚥性肺炎予防のためにも、食前の口腔ケアにて清潔湿潤させることが必要

Point 10 口腔ケア=歯磨き+粘膜ケア

・歯が無い方→歯が無くても粘膜ケア必要
・洗口不可能な方→除去した汚れを洗口代用として回収が必要 → **口腔ケア必要**
・非経口摂取者→経口摂取していても汚染する+口腔乾燥

医薬部外品



お口のトータルケアに

ヒノーラ®

口腔ケア用ジェル(薬用ハミガキ)

抗菌・抗炎症成分配合

特徴

抗菌成分
ヒノキチオール
+
殺菌成分
IPMP®
配合

抗炎症成分
グリチルリチン酸
ジカルウム配合

研磨剤
発泡剤
エタノール
不使用

※イソプロピルメチルフェノール

効能・効果

- ・歯肉炎の予防
- ・歯周炎(歯槽膿漏)の予防
- ・むし歯の発生及び進行の予防
- ・口臭の防止
- ・口中を爽快にする
- ・口中を浄化する

ご注意

発疹などの異常が現れた場合は使用を中止し、医師、歯科医師に相談してください。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。直射日光のあたらない涼しい暗所に、キャップ部分を下にして立てて保管してください。出にくい場合はキャップをしっかり閉めて右のイラストのように数回振ってください。成分由来の赤褐色の着色物が見られることがあります。使用には問題ございません。



無香料



販売名
大塚口腔ジェルN

すだち
フレーバー



販売名
大塚口腔ジェルS

ヒノキチオール 0.1%配合

口腔化粧品



お口にうるおいを与えて乾燥を防ぐ

ヒノーラ®うるおいジェル

口腔湿潤ジェル

無香料



販売名
大塚口腔ジェルWN

80g



すだち
フレーバー



販売名
大塚口腔ジェルWS

80g



特徴

うるおい成分
ヒアルロン酸ナトリウム
+
コラーゲン®
配合

適度な
粘度

研磨剤
発泡剤
エタノール
不使用

※加水分解コラーゲン

ご注意

発疹などの異常が現れた場合は使用を中止し、医師、歯科医師に相談してください。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。直射日光のあたらない涼しい暗所に、キャップをして保管してください。成分由来の赤褐色の着色物が見られることがあります。使用には問題ございません。

製造販売元
日本ゼット株式会社
東京都新宿区西新宿1-26-2



発売元
イーエヌ大塚製薬株式会社
岩手県花巻市二枚橋第4地割3-5

販売提携
大塚製薬株式会社
東京都千代田区神田司町2-9

販売提携
株式会社大塚製薬工場
徳島県鳴門市撫養町立字芥原115

お問い合わせ先 イーエヌ大塚製薬株式会社 コールセンター ☎ 0120-014-010

<'24.03作成>
OCA2624B02
(9604)HK